



Japan Communication Association (JCA) Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター

CONTENTS

114
2017.2

巻頭言

文系不要論とコミュニケーション学

学術局長 高井次郎 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)



最近、日本政府の懐は厳しいようで、高等教育予算が大幅にカットされる予定があります。高齢化による税収不足と社会福祉支出拡大、度重なる震災からの復興、原発事故の処理、近隣国からの脅威による軍事化など、財政を圧迫する要因が増える一方なので、無理はないです。ただ、一国の将来を担う大学に対する予算緊縮は得策とは言えないのではないのでしょうか。そのなかで、「文系不要論」という言葉を、世間もよく耳にしていると思います。これは、2015年6月に文科省は国立大学に対して、人文社会科学系学部の統廃合を勧告したことによって、文科省は大学の文系専攻の縮小を狙っていることを明確にしたと解釈できます。つまり、限られた予算で、学問的生産性と社会的貢献度の高いSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) や医学系を重視するため、文系学部や文系単科大学をリストラする政策を案じているのです。現に、国立大学では昨年の夏から、急激な動きが各キャンパスで起こっています。私が勤務する名古屋大学も例外ではなく、すでに3つの文系研究科を1つに統合されることが決まり、さらにこの統廃合に関連していない文系研究科に対しては、ミッションや将来像、社会的・学問的貢献などを示して明確な存続・存在意義を呈することが求められています。

私の父親は植物病理学者で、大学進学の話の際には口癖のように「文系は役立たず」と言い、理系を専攻することを強く要望していましたが (実際に当初は地質学を選びました)、名古屋大学では似たような意見をよく耳にします。理系が重視される大学に在るからでしょうけれども、理系教員は文系学問をずいぶん蔑視している様相がうかがえます。例えば、「文学者は趣味である読書をするを〈研究〉と思っている」、「小説の感想文を厚かましく〈研究論文〉と称している」、「貴重な研究費を〈資料収集〉名目に実際はシェークスピアの発祥地に観光旅行に行くために使っている」など。さらに、このような「エセ」研究者に対して、教授格に年俸1千万円を無駄にしているとか、文系は社会に対するアカウンタビリティがないとか、平然と批判的な意見をわれわれに表明します。

まあ、それぞれ自分の意見を持つことは大切ですし、100%間違っているわけでもありません。ただ、日本の大学から文系が消えてしまえばどうなるのでしょうか? 科学が暴走するでしょう。すでに自動車の自動運転で予兆がうかがえます。車が自動的にAからBまでわれわれを安全に、かつ燃費効率よく運んでくれとされています。道に迷うこともないし、スピード違反もなければ信号無視もなく、結果交通事故は激減し、road rageのようないさかきも減ります。確かに、科学技術の進歩は交通の効率化を実現させることはできるでしょう。しかし、車を運転することの楽しみはどうなのでしょう。人間である限り、このような「人間らしい」「人間特有」の楽しみというものがあります。それについて考える学問が必要です。さもないと、科学技術の介入によって、ますます人間は人間らしく生活できなくなってしまいます。

このような時代において、文系学問であるコミュニケーションはその存在意義をアピールする必要があります。コミュニケーションは通信技術だけではなく、人と人との関係性において交わされるメッセージとそれがもたらす人間らしい効果です。つまり、コミュニケーションは機械的ではなく、人間的なのです。

最近の心理学の動向を見ると、質問紙調査からより科学的な指標を中心とする研究へとパラダイムシフトが始まっています。社会科学的領域の心理学が生理科学、脳科学、神経科学など、自然科学の領域へと様変わりをしています。先学期、大学院のゼミでは「人種偏見と脳科学」について勉強しましたが、人の偏見を測るには、質問紙調査では回答を意識するため、社会的望ましさによる信ぴょう性の欠如があるから生理的指標を用いるべき、という議論がずいぶんと進んでいます。fMRI（機能的MRI）を用いて、脳の血流の変化、特に扁桃体という部位に対する血流をモニターすることにより、人は特定人種の刺激に対する脅威を感じるのかどうかを確認しています。それは大いに結構なのですが、人によっては体で脅威を感じても、それを外顯的な行動に表さないように努力する人もいるでしょう。fMRIはこうした意識的な働きを測定できるのでしょうか。人間には意識があり、その意識的経験は本人の自己報告以外に調べることはできません。コミュニケーションは人の意識レベルの現象です。やはり脳科学や神経科学が取り扱える範囲は限られていて、その範囲を追究するには文系の学問であるコミュニケーション学が必要です。

この記事を読まれる方は、おそらくコミュニケーション学者、あるいは隣接の文系学問の研究者であろうから、このつぶやきから何も新しい知見をえられるどころか、今更と書いていらっしやるでしょう。オーディエンスを間違えています。本当は理系の大学教員・研究者、理系のシンパの政治家や官僚に届けたいメッセージですが、私が厚かましく彼らに意見を述べるような権力はありません。しかし、わが国最大のコミュニケーション関連学会である、日本コミュニケーション学会にはあるのではないのでしょうか。学会単位で、もっとわれわれは頑張って、高等教育行政に文系の意義をアピールし、大学に文系学問を存続させる 때가来ています。

2016年度 第1回理事会報告

2016年12月26日(月)午後1時から、2016年度第1回理事会がJR 東京駅に隣接する三菱ビル内の「名古屋大学東京オフィス」にて開催された。17名の理事の出席により理事会は成立。

I. 会長挨拶

大学と地域社会との相互交流が重要視されるなか、学会と地域やコミュニティとの連携にも目を向けていきたい。日本コミュニケーション学会は何を提供できるのかを探り、それらを様々な場所で生かすことを考えていきたい。

II. 報告事項

【1】第46回年次大会報告(野中)

2016年6月11日(土)～12日(日)、西南学院大学で開催された年次大会は無事、盛会のうちに終えることができた。ご協力いただいた方々への感謝が述べられた。

【2】各局および担当理事報告

1. 事務局

(1) 入退会者および会費納入報告(高永)

2016年6月以降の会員数増減は以下のとおりである。

新入会員 17名(正会員 10名、学生会員 7名)

退会者数 9名(正会員 9名)

2016年12月21日時点での総会員数は以下のとおりである。

会員総数 448名: 正会員 434名、学生会員 13名、準会員 1名

(2) 年次大会会計報告(松島)

第46回年次大会の会計報告があった(概要は事務局報告を参照)。

年次大会開催にあたって、西南学院大学より助成金をいただくことができた。

(3) 支部助成金について(松島)

今年度の支部助成金の申請締め切りは2月初めとなる旨が報告された。

2. 学術局

(1) ジャーナル関連(坂井)

『日本コミュニケーション研究』第45巻第1号が2016年11月30日に発行された。第45巻第2号は、2017年5月31日の発行を予定し、7月31日に投稿を締め切った結果、9本を受理し、査読の結果掲載可能2本、掲載不可が7本となっている。Kent Ono先生の年次大会学術講演論文も掲載予定。第46巻第1号の投稿論文の募集締め切りは2017年1月31日を予定している。

(2) J-Stage 移行に関する報告(坂井)

J-Stage 利用説明会(2016年10月18日)に坂井と副編集委員長の大橋先生が出席した旨と、J-Stage 移行の手続きの進展と今後の作業予定が説明された。

(3) 学会賞関連(高井)

学会賞応募に関する報告があった(学術局からのお知らせを参照)。

3. 広報局

(1) ニュースレター113号の発行と114号の予定(田島)

ニュースレター113号(10月号)を発行した。次号114号(2月号)は2月初旬発行予定。コラムと書評を募集している。

(2) 他学会への年次大会案内(田島)

昨年度は事務局作成の年次大会案内を1月下旬に以下の学会へ送付した。今年度も同様に送付する予定である。送付不要あるいは新たに追加した方がよい学会があればお知らせいただきたい。

異文化教育学会、多文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会、表象文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN(異文化コミュニケーション学会)、日本語用論学会、以上。

(3) 第47回年次大会の広告・展示ブース設置募集について (小山)

第47回年次大会(京都ノートルダム女子大学にて開催)での広告・展示ブース設置募集について報告があった。

(4) Web 関連(小山)

6月以後のWeb更新情報が報告された。

4. 企画担当理事(吉武)

(1) オーラルヒストリー企画継続案とその他の企画案が配付された。

【3】各支部報告

各支部長がそれぞれ報告を行った(内容は支部ニュースを参照)。

【4】各理事よりその他報告

1. 海外渉外担当理事(宮原)

第46回JCA年次大会は福岡でICAの年次大会と同時期の開催となった。今後もICAとの関連を深める活動が続いていく。

III. 審議事項

【1】第47回年次大会関係(事務局)

日程と場所について2017年6月3日(土)~4日(日)に、京都ノートルダム女子大学(京都市)にて開催することを確認した。大会実行委員長は小山理事となる。大会テーマは「コミュニケーションと未来」となった。学術講演の候補の検討を事務局で行う。2017年2月20(月)を締め切りに、発表論文・企画セッションを募集する。

【2】各局および担当理事

1. 事務局

(1) 会計年度について

現在の会計年度(6月1日~5月31日)から4月1日~3月31日を会計年度とする変更に関し審議され、変更の準備を開始することが決まった。今後6月の総会で会則の変更を提案し、その他関連手続きを行うことが承認された。2018年4月から新会計年度を開始する計画となった。

2. 学術局

(1) J-Stage 移行関係

1. 初回公開以降のJ-Stageへのデータ登載作業の委託について審議された。委託の内容、委託業者の統合の可能性、前身誌からの移行について期間設定などが審議され、継続審議されることになった。
2. J-Stage 公開日について審議された。審議の結果、ジャーナル発行日と同時の公開が決まった。
3. 購読者認証機能の設定について審議された。審議の結果、アクセス制限を設けないオープンのかたちで公開することが決まった。

2. 広報局

(1) Web 関連

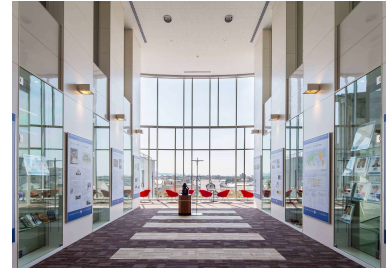
学会ホームページリニューアルについては、J-Stage 移行の業者委託と合わせて検討していくこととなった。

【3】 次回理事会開催日時・会場

2017年3月30日（木）13:00-17:00、関西大学東京センター(東京駅前サピアタワー)にて開催予定。

第 47 回年次大会会場校案内

第 37 回年次大会は 2017 年 6 月 3 日(土)・4 日(日)に京都ノートルダム女子大学(京都市左京区)で開催されます。関西地区、そして京都では、2012 年の京都文教大学での第 42 回大会以来 5 年ぶりの開催となります。2014 年に完成したまだ新しい校舎で皆様をお迎えできるのを嬉しく思っております。



今回の年次大会のテーマは「コミュニケーションと未来」です。京都といえば、古からの長い歴史、現在、そして未来の交差する街、と高らかに宣言したいところではありますが、こと「未来」に関しては他の多くの自治体、組織と同様、誰もがまだその明確な方向性を探しあぐねている状態かもしれません。たとえば我々の多くが関わる大学間の連携(コミュニケーション)を取り上げてみると、京都には全国初の大学連携組織「京都・大学センター」が発展して組織された「大学京都コンソーシアム」という組織が存在します。大学間の単位互換や高大連携、FD 研修に学生祭典と、その幅広い活動により、有機的な産学公連携が実現しつつあるように思えます。しかし、たしかに「共時的」コミュニケーションがある程度確立されている反面、過去との、そして最も大切な「未来」との「通時的」コミュニケーションについては未だその明確な形や姿勢を感じられるところまでは至っていません。もちろん、「未来とのコミュニケーション」といっても、その対象(相手)が誰なのか、どのようなチャンネルで行うのか、そもそも未来に向けた、あるいは私たちが想定/創造する未来との記号(シンボル)による相互作用など成立するのか、等々の疑問は当然ですし、あくまでも現在のコミュニケーション学の枠では規定できないむしろ抽象的で感覚的な概念に過ぎないかもしれません。しかし、我々はそろそろ、(共時的コミュニケーションの研究もまだまだ発展途上であるという現状は正しく認識しながらも)未来との通時的コミュニケーションのあり方について、具体的に、実践的に、そしてなによりも学術的に取り組むべき時期に差し掛かっているのではないのでしょうか。

会場校案内から話が逸れてしまいましたが、第 47 大会では、京都の歴史を感じながらも、その未来との相互作用について、ぜひみなさまと語り合える機会になることを祈念しております。

大会では、学術講演の他にも大会テーマに関連した学術発表を募集いたしますので、奮ってご応募ください。また、発表の有無にかかわらず、出来るだけ多くの会員の皆様にご来場いただき、年次大会を研究交流の場として活用していただけますことを期待しております。京都で皆様とお会いできるのを楽しみにしております!

(開催校 小山哲春)

事務局からのお知らせ

第 47 回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2017年6月3日(土)・4日(日)に、京都ノートルダム女子大学(京都市)で第47回年次大会を開催いたします。本年度のテーマは「コミュニケーションと未来」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。

また研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を募集します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会のみならず社会に有効な企画をぜひお寄せください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください：

- ① プログラム掲載用要旨： 和文 800 字以内
 英文 300 語以内
- ② プロシーディングス掲載用要旨： 和文 3000 字以内 (脚注を含む)
 英文 1000 語以内 (脚注を含む)

いずれも、必ずA4版2枚にすべてを収めてください。なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収めてください。詳しくは、JCA ホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「JCA submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の森泉哲宛(moriizum@[nanzan-u.ac.jp])まで電子メールでお送りください。

応募締め切りは2017年2月20日(月)となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がJCAの会員であることが規定によって定められています。応募時までにJCAの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、お願い申し上げます。

Call for Papers for the 47th JCA Annual Convention

The Japan Communication Association is planning to hold its 47th Annual Convention on Saturday, June 3rd and Sunday, June 4th, 2017, at Kyoto Notre Dame University in Kyoto City. The theme of the Convention will be “Communication and Future.” JCA will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the JCA members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session’s objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the JCA members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Satoshi Moriizumi, Deputy Director of Academic Affairs, at [moriizum\[at\]nanzan-u.ac.jp](mailto:moriizum[at]nanzan-u.ac.jp) by Monday, February 20th, 2017

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted:

(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or

3000 characters in Japanese (including foot/endnotes)

The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4- size paper. Refer to the Submission Guidelines for JCA proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary. Also, at your submission, please specifically type “JCA submission:[name]” on the subject of your mail.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the JCA members. If these responsible persons don’t have the JCA membership, please join the JCA before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the JCA homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Kyoto!

学会誌に関するお知らせ

2016年11月に『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第45巻1号が刊行されました。現在は5月末発行予定の第45巻2号の準備を進めています。内容は2本の研究論文と2016年度年次大会での学術講演者のKent Ono先生の論考を中心に掲載する予定です。5月下旬には皆様のもとにお届けできるよう編集作業を現在進めています。

また再査読システムの導入により、査読者のコメントをもとに投稿者がレベルアップをして学会誌に再投稿することが可能となっています。次号のジャーナルにも再査読システムを使用し掲載される論文が1本あります。今後も再査読システムが有効に働く工夫を重ねていきます。

現在は、11月発行予定の第46巻1号の締め切りが1月末に終了し、第46巻2号(2018年5月末発行予定)への投稿論文募集を開始し始めたところです。締め切りは7月末日です。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]caj1971.com
CC: jisakai[@を入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井(jisakai[@を入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp)までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

現在、学術誌(ジャーナル)の在り方が紙媒体から電子媒体へと急速に変わりつつあります。これは日本だけのことではなくグローバルレベルで進行する現象と言えます。このオンラインジャーナル化の動きは、オープンアクセスへの移行とも関連しているようです。紙媒体には紙媒体の良さと意義があり、今後も残っていくことと思われませんが、ジャーナルの電子化の動きは電子書籍化の動きを背景に勢いを増していくことでしょう。その一方で、ジャーナルが多様な論文から構成されることに変わりはありません。皆様のご投稿がジャーナルの源なのです。今後も本ジャーナルの年2回(1月末と7月末)の投稿機会をご利用いただき、研究成果を分かち合っていただけたら幸いです。皆様のご投稿、切にお待ち申し上げます。

学術局セッション報告

今年の学術局セッションでは、「コミュニケーション研究と社会実践」というタイトルで4名の方がコミュニケーション研究の社会での実践例について話題提供する形で行われました。コミュニケーションは人間の営みと深く関係しており、様々な形で社会に浸透しています。その意味でコミュニケーション研究を理論と実践の融合として位置づけ、社会実践として考察していくことは意義深いと考えられます。今年の学術局セッションでは、メディアコミュニケーションに関する公開講座、異文化コミュニケーションを題材にした通信教育の授業、実践ワークショップ中心のコミュニケーションに関する授業、会議などの公的な場でのコミュニケーションの実践などの様々な社会の場でのコミュニケーション研究の実践例が話題提供者により報告されました。これらの知行合一としてのコミュニケーション研究の実践を考えていくことは、コミュニケーション研究の社会的意義を意識的に発信し、様々な形で社会に貢献していく試みとして今後も重要性は増すと考えられます。

学会賞応募に関するお知らせ

当学会では、学会賞審査対象の著書を常時募集しております。今年度は、2016年1月1日から12月31日に出版された本学会員によるオリジナルの著作が対象となります。共著・分担執筆による著作については、すべての執筆者が本学会員である必要はありませんが、著作への本学会員の貢献が顕著と認められるものについて審査の対象とします。応募資格に関して不明な点がある場合は、事前に下記問い合わせ先にお問い合わせください。締め切りは、2017年2月28日（必着）となります。応募される会員は、下記募集要領に従い応募してください。なお 審査結果の報告は、年次大会の授賞式での発表に代えさせていただきます。

応募資格： 正会員（自薦、他薦は問いません）。

応募方法： 希望者は審査用著書3冊とともに、1000字程度の著作概略および著者の名前・連絡先を明記したものを添えて応募してください（尚、著書は返却いたしませんのでご了承ください）。

応募数量： 一人一冊

問い合わせ先および審査書類一式提出先：

学術局長 高井次郎

住所：464-8604 名古屋市千種区不老町 名古屋大学教育学部

電話&ファックス：052-789-2653

E-mail: [jtakai@\[@を入れる\]cc.nagoya-u.ac.jp](mailto:jtakai@[@を入れる]cc.nagoya-u.ac.jp)

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 会費納入のお願い

3月初旬に会費未納の方に振込用紙をお送りする予定です。今年度の会費の再請求は今回で最後となります。お早めにお支払いただきますようお願い申し上げます。会費2年分滞納でジャーナルの最新号を受け取ることができず、また3年分滞納で、除名処分の対象となりますのでご注意ください。

2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変わられた場合には、速やかに学会支援機構までご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。変更の際には、会員番号とパスワードが必要になります。会員番号は学会支援機構からの郵便物の宛名の下に記載されている10桁の番号です。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていればご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、従来通りのメールや葉書等でのご連絡も受け付けますが、学会事務局ではなく、学会支援機構までお願い致します。

3. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

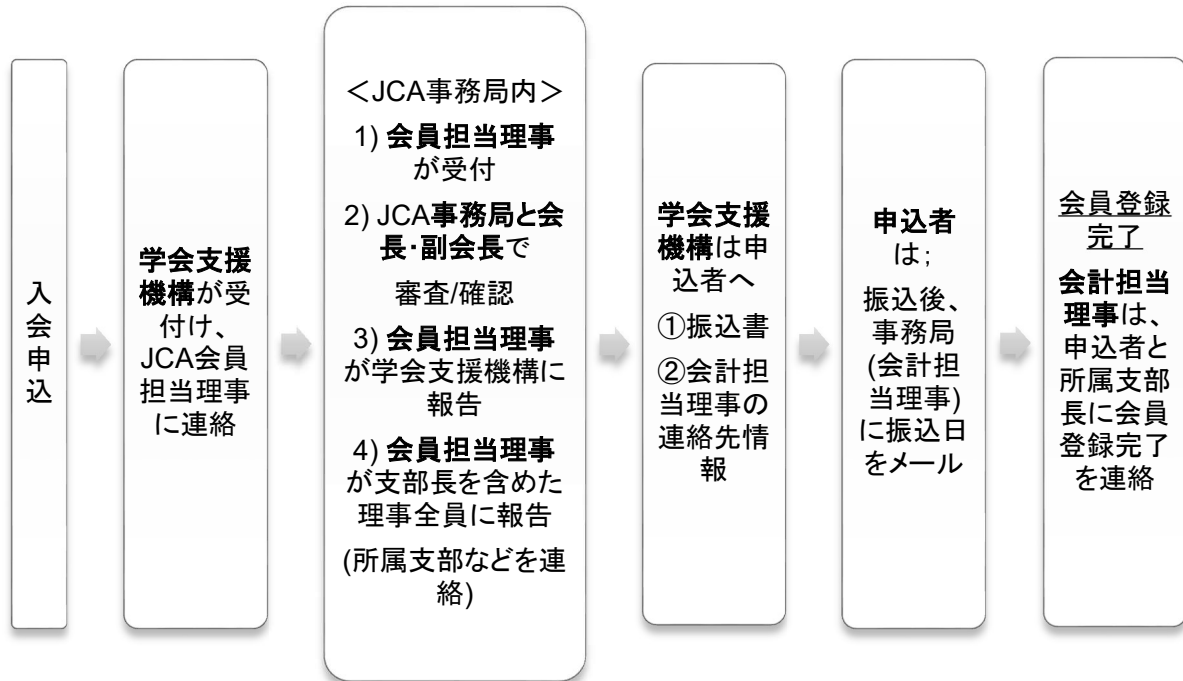
ジャーナルバックナンバー、記念論文集などの学会発刊物をお求めになりたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。なお、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp>) ※に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。（住所は18ページに掲載）

※CiNiiのサービスは2017年3月で終了することになっています。現在J-Stageへの移行作業を進めています。

4. 新規会員の手続き

JCAでは、新しい学会会員を随時受け付けています。以下のような流れ形で、新規会員の手続きを行います。会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会計担当理事にメールにて会費を振り込んだ日をお知らせいただくことにしています。その上でJCA事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡いたします。

ご不明な点がありましたら事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。



2016年度年次大会収支報告

〈収入の部〉

大会参加費	352,000
懇親会参加費	165,000
弁当代	37,000
寄贈図書売上	0
ジャーナル売上	3,000
広告費	50,000
展示費	10,000
助成金(西南学院大学から)	123,000
学会補助	412,812

合計 1,152,812

〈支出の部〉

プログラム作成費	251,661
プロシーディングス費	77,760
ポスター製作費	83,808
講師謝礼	50,000
講師交通費	8,350
懇親会費	227,500
役員弁当代	51,000
弁当代	35,000
茶菓代	7,831
人件費	157,500
設営費および事務費	46,622
業務委託費	48,600
添乗員旅費	107,180
会議費	0

合計 1,152,812

広報局便り

広報局からのお知らせ

- ① ジャーナル投稿専用アドレスの運用について
学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス ([journal@\[@を代入\]caj1971.com](mailto:journal@[@を代入]caj1971.com)) で次号投稿の受付を行います。広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ② 会員の皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報ください。ホームページにアップしたいと思います。
- ③ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。
- ④ 広報局では、JCA ニュースレターへのご寄稿を募集しております。次頁の要領をご覧ください、奮ってご寄稿ください。

JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：田島慎朗 ([tajima-n@\[@を代入\]kanda.kuis.ac.jp](mailto:tajima-n@[@を代入]kanda.kuis.ac.jp))

- ① 著書紹介
会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。
和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。
- ② コラム：コミュニケーション教育
コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。
和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ③ 書評
コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。
和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。
- ④ NL 表紙の写真
ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

支部ニュース

北海道支部

(事務局長 目時光紀)

2016年9月21日(水) 19:00~21:00に第1回(2016年度)支部勉強会を北海道医療大学サテライトキャンパスで開催しました。参加者は6名でした。今回は参加者が論文を持ち寄り、批判的に内容を吟味しました。意見交換の中でテストの標準化が話題に挙がったこともあり、第2回支部勉強会ではテストングについて改めて勉強することになりました。尚、第2回支部勉強会は2017年1月27日(金) 19:00~20:30に北海道医療大学で開催される予定となっています。

(2016年度)支部大会は2016年10月15日(土) 13:30~17:55に札幌国際大学で開催しました。参加者数は11名(非会員2名を含む)でした。今回は、北間砂織先生(藤女子大学)の研究発表「札幌における医療通訳の現状」のあと、長谷川聡先生(北海道医療大学)、足利俊彦先生(北海道医療大学)と私目時(天使大学)が日々の授業で実践しているアクティビティーをそれぞれ報告しました。また、佐々木智之先生(北海道科学大学)のワークショップ「ディベートの要素を活用したグループワークの実践例」を通じて「ディベート」を実際に体験し、稲谷丈広氏(介護老人福祉施設 白ゆりあいの里 総務課 課長補佐)の実践報告「お別れ会でこころはひとつ——私もこんな風に見送ってほしい——」を通じて「あるべき見送り方」について深く意見交換することができました。



(2016年度)支部研究会ですが、昨年度に引き続き今年度も大学英語教育学会(JACET)北海道支部と北海道英語教育学会(HELES)と合同で2017年3月4日(土)午後北星学園大学で開催予定となっています。コミュニケーションや英語教育関連の研究発表に加え、日本コミュニケーション学会(JCA)会長の五島幸一先生(愛知淑徳大学)のご講演「アメリカのメディア報道の特徴と言語表現——コミュニケーションの観点から——(予定)」やアメリカ大統領選の報道に関するパネルディスカッション「米国大統領選を振り返る——メディアの伝え方——(予定)」も予定されております。お時間のある方は是非ご参加ください。

お問い合わせ先:

JCA北海道支部事務局 目時光紀
metoki0702[@を入れる]gmail.com

東北支部

(支部長 川内規会)

活動報告

1. ニュースレター第27号の発行
2. 支部HP <http://www.caj1971.com/~tohoku/index.html>

の更新

「ニュースレター27号」「第17回東北支部研究大会」
「2016年度東北支部定例研究会」掲載

3. 第17回東北支部研究大会の開催

(2016年11月19日、新潟市)

【研究発表4件】

- ・「ヨガの効果——ストレス緩和と自己受容の観点から——」宮曾根美香(東北工業大学)
- ・「大学で実施されているアジアにおける海外研修動向」小林葉子(岩手大学) 宇治谷映子(名古屋外国語大学)
- ・「医療通訳配置想定時の言語的な壁に関する一考察——医療通訳拠点病院の取り組みを参考にして——」川内規会(青森県立保健大学)

・「英語スピーキング不安感とオンライン英会話学習実践との関係——未知の他者との接触の逃避に関する考察——」石橋嘉一（青森中央学院大学）

【シンポジウム】

「健康とコミュニケーション」をテーマとし、参加者とともにラウンドテーブルの形で行いました。「健康」は人々の関心をひきつけるテーマのひとつですが、「健康」であるとは全ての人にとって意味が完全一致する概念ではないにも関わらず、共通の意味を持っているかのように語られることが多くあります。また、誰が健康の基準を定めたのかということに注意が払われることはほとんどないまま、健康教育が学校教育や、あらゆる場面で広くなされています。このパネルディスカッションでは、東北支部の五十嵐紀子先生の司会で、金谷光子先生（新潟医療福祉大学）、栗崎由貴子先生（新潟医療福祉大学）をパネリストとしてお迎えし、医療福祉職養成教育に携わる者、医療者、「病」の当事者などの様々なバックグラウンドから「健康観」を問い直しました。参加者は、12名と少数ではありませんでしたが、全員から発言があり、ディスカッションは大変盛り上がりしました。



今後の活動予定

1. ニュースレター第28号の発行
2. 「2016年度東北支部定例研究会」の開催
2017年3月11日(土)13:00～
(東北工業大学 長町キャンパス4号館)
研究発表および教育実践報告など
3. 支部HPの随時更新

中部支部

(支部長 藤巻 光浩)

1. 2016年12月17日(土)に、支部大会を開催しました。JCAのレトリック研究会との共催ということもあり、40人弱が集まりました。いつも支部大会が行われる教室が小さく感じたほどでした。

基調講演の渡辺直登先生は、プログラム評価の意義や方法について、具体的な事例に引き付けてお話をしてくださいました。多くの教員が、教育プログラムに関わっていることを考えれば、この講演は非常に有意義なものでした。

それに続く、「オバマ政権を総括する」というパネルでは、オバマ政権の評価を特に、彼の演説に引き付けて議論しました。オバマの演説に関する著書をお持ちの、鈴木健先生と花木亨先生をお招きし、活発な議論を行いました。

それに加え、もう一つ昨年度出版された本の合評会を行いました。畑山浩昭先生と日高勝之先生による正確な読みと、鋭い質問に著者はたじろいでおりました。

懇親会も、例年になく多くの参加者があり、盛況に支部大会を終了することができました。来年度も、充実した企画満載で支部大会を行う予定です(テーマは、医療になるのではないかと予想しています。乞うご期待!)

この支部大会の様子は、支部のNLに掲載されます。3月末ごろに発行されますので、支部大会に来ることができなかった方は、是非、お読みください。

2. 中部支部のニューズレターには書評欄があります。是非、投稿ください。毎年、10本ほどの書評を掲載していますが、大学院生によるフレッシュな書評でも、熟練研究者による渾身の本や記事でも、コミュニケーションに関係する本の記事であれば何でも受け付けています。2月19日(日)が締め切りです。送付先は、宮崎新先生です。メールアドレスは、以下の通りです。

[arata\[at\]meijo-u.ac.jp](mailto:arata[at]meijo-u.ac.jp)



関西支部



(支部長 守崎 誠一)

前回のニューズレターでは、2016年11月19日に関西支部の秋季研究会を開催する予定であることをお伝えしていたのですが、予定していた講演者が参加できないという不測の事態のために、急遽研究会を中止いたしました。研究会の開催を楽しみにしていただいていた方々には、大変申し訳なく思います。この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。

3月上旬には、例年通り春季の支部大会を開催する予定をしております。詳細については、随時、関西支部のホームページでお知らせする予定をしております。秋季研究会の分も含めて、大勢の方々にご参加いただけますことを願っております。

また、2017年度の年次大会が、6月3日・4日の予定で京都ノートルダム女子大学にて開催されることが決定しました。関西支部の運営委員一同で皆様をお迎えできるように努力するつもりです。初夏の京都で、大勢の会員のみなさまとお会いできますことを願っております。



中国・四国支部



(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、2016年12月4日(日)に福山大学宮路茂記念館にて第19回支部大会を開催いたしました。前回テーマ「リメディアル教育」を引き継ぐかたちで、今大会のテーマは「コミュニケーション学と教育」としました。まずは、学術発表(3件)からスタートです。

学術発表①脇忠幸(福山大学)

「コミュニケーション能力」の言説分析

学術発表②Warren Tang(福山大学)

Second Language Learners Play the “Imitation Game”
—The Use of Immediate Social Media to Understand
Perceived Native-like Communication Strategies—

学術発表③Rudolf Reinelt(愛媛大学)

Communicational Advantages from Continuing 2nd
Foreign Language Learning(邦題 コミュニケーション
学習としての第二外国語習得の継続)

学術発表に続き、関西大学の八島智子先生に「コミュニケーション学とSLA(第二言語習得論)の交差点——Willingness to Communicate——」という演題でご講演いただきました。



副題にもなっている“Willingness to Communicate”は、SLAに限らず母語教育においても、また広くコミュニケーション教育においても、非常に重要なポイントだと認識を新たにしました。

当日の参加者は5名と少なかったのですが、非常に濃い議論を交わすことができました。今後もこの「濃さ」を大事にしていきたいと考えております。なお、次回も11月末～12月上旬に福山大学宮路茂記念館で開催予定です。



九州支部



(支部長 池田 理知子)

1) 2016年10月22日(土)、第23回支部大会を熊本学で開催しました。平野順也大会実行委員長のもと、「記憶と未来——71年目からの戦後史——」をテーマに2部構成で行われた大会は多くの方の参加となり、成功裏に終わりました。第1部は12本という支部大会

の規模に鑑みるとかなりの数の研究発表がありました。とくに大学院生をはじめとした若手研究者の発表が半数を占めたことは、今後の日本におけるコミュニケーション学の発展を考えると非常に喜ばしいことです。第2部は熊本における戦争被害の実態を伝える活動を行っている赤木満智子氏および高谷和生氏による基調講演と、高谷氏と畠山均先生、池田の3人による公開シンポジウムを行いました。学会員のみならず、一般参加の方たちや熊本大学の学生など多数の参加者があり、活発な意見交換の機会がもてたことは喜ばしいかぎりです。支部大会の詳しい報告は、ホームページにて九州支部のニューズレターをご覧ください。

1. 研究発表の様様



2. 高谷和生氏の講演

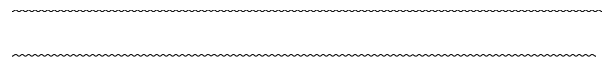


3. シンポジウム



2) 支部紀要『九州コミュニケーション研究』(Kyushu Communication Studies) 第14号を12月末に発行しました。支部のホームページに掲載されておりますので、お読みください。次号(第15号)の原稿締め切りは2017年1月末です。九州支部の会員以外の方でも投稿できますので、ご一考いただければと思います。

3) 支部のニューズレター(第28号)を2017年1月に発行しました。支部大会やその他の活動報告、学会会員からのメッセージ、会員の出版図書の書評など、多彩な記事が掲載されておりますので、支部のホームページをご覧ください。



学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012

E-mail: [office\[at\]jasas.or.jp](mailto:office[at]jasas.or.jp)

NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニューズレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。

つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き (Membership)」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1.オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

編集後記

今回、就任後2つ目のニューズレター発行です。ご執筆いただいた先生方、編集をお助けいただいた先生方には改めて深く御礼申し上げます。

高井先生が巻頭言でお書きになっているように、人文系のアプローチをとる自分としては、昨今研究がやりにくいという印象をもつことが多いです。全米人文科学基金 (National Endowment for Humanities) 廃止に向けた動きしかり、自分が所属する大学の付属図書館での電子版ジャーナル購読継続についての他分野の教員との話し合いしかり。日本の大学に所属して数年の自分も、肩身の狭い思いをすることや、納得のしがたい決断を迫られることが何度かありました。

このような状況のなか、このニューズレターは、私たち日本のコミュニケーション学者をつなぎ、活動を活発にするものだと思っています。今後ともコミュニケーション研究を根付かせ、繁栄させるために、皆さまのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

広報局 ニューズレター担当 田島慎朗